

平成23年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 基盤研究(B) 4. 研究期間 平成21年度～平成23年度
5. 課題番号 2 1 3 0 0 0 4 5
6. 研究課題名 笑いがもたらす情報・情動・同調に着目した漫才インタラクションの時空間的分析
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
2 0 3 5 0 5 0 6	飯田 仁	メディア学部	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 0 4 2 4 3 1 0	岡本 雅史	清泉女子大学・文学部	講師
2 0 3 8 6 7 7 5	大庭 真人	片柳研究所	研究員
5 0 4 0 9 7 8 6	石本 祐一	国立情報学研究所・情報社会 相関研究系	特任研究員
1 0 3 5 2 5 5 1	阪田 真己子	同志社大学・文化情報学部	准教授
9 0 2 7 5 1 8 1	細馬 宏通	滋賀県立大学・人間文化学部	教授

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

漫才における演者の発話とツッコミ行為の推移を分析し、ボケ役の発話中もしくは直後とツッコミ行為との間に発生する「身体ノリ」の出現頻度と様式のバラエティを調べると、「身体ノリ」は観客の有無にかかわらず行われる一方で、観客のいる方が発生しやすく、また、同じネタでも観客の有無によってその表現は異なることがわかった。これらから考えると、「身体ノリ」は、あらかじめ決まった動作というよりは、その場でそのつど産み出される身体動作である可能性があることが分かった。

また漫才中の演者のモーションキャプチャデータを分析した結果、ボケ役の発話に対して、ツッコミ役は姿勢を観客に向けながら、ボケ役との距離をとり、その後、視線・姿勢共にボケ役に向けつつ、距離を近づけながら「ツッコむ」という行為が示された。つまり、ツッコミ役はボケ役に対し視線を向けることで、観客が「今誰を見るべきなのか」を視覚的に表示し、ボケ役に観客の注意を誘導する「共同注意」の役割を果たしていると考えられる。漫才においてオープンコミュニケーションをコントロールしているのは「ツッコミ」であることが示された。その特徴としては、「身体ねじり」を利用し観客に対する外部指向的な発話を行うことで、観客を含んだKendonのF陣形を構築し、観客を漫才対話の中に引き込んでいる。ただし、F陣形を常に観客を含んだ状態で維持するわけではなく、時には二人の漫才師で閉じられたF陣形を形成し、自然な会話を演出することで違和感なく話を展開させている。そして、笑いを誘発する目的の発話の際には発話者に対して「共同注意」を促すことにより、観客の意識を発話者に誘導し情報提供を確実に行う。つまり、オープンコミュニケーションを行うためには、情報発信者と真の情報の受け手とを結びつけることが重要であり、F陣形を巧みにコントロールする人物が必要であるといえる。

10. キーワード

- (1) ヒューマンインタフェース (2) 漫才インタラクション (3) (4)
- (5) (6) (7) (8)

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。
 <区分>①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

(区分)	
(理由)	

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

13. 研究発表（平成23年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

【雑誌論文】 計（3）件 うち査読付論文 計（1）件

著者名	論文標題			
Mamiko Sakata	Process in Establishing Communication in Collaborative Creation			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Human Interface and the Management of Information. Interacting with Information	有	6772	2 0 1 1 	315-324
掲載論文の DOI（デジタルオブジェクト識別子）				
なし				

著者名	論文標題			
丹野匡貴	漫才におけるオープンコミュニケーション構造の定量化－観客の有無による非言語行動の比較－			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
ヒューマンインタフェースシンポジウム2011	無	HIS2011	2 0 1 1 	785-788
掲載論文の DOI（デジタルオブジェクト識別子）				
なし				

著者名	論文標題			
細馬宏通	漫才、コントにおけるツッコミ役のパフォーマティブな気づき			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
電子情報通信学会技術研究報告. HCS, ヒューマンコミュニケーション基礎	無	111	2 0 1 1 	83-86
掲載論文の DOI（デジタルオブジェクト識別子）				
なし				

【学会発表】計（11）件 うち招待講演 計（0）件

発表者名	発表標 題	
保田祥	「犬」と「イヌ」と「いぬ」～日本語表記の違いによる動物の部位分布～	
学会等名	発表年月日	発表場所
言語処理学会 第18回年次大会	2012年3月16日	広島市立大学（広島県）

発表者名	発表標 題	
保田祥	<新しさ>のために循環する表現－女性向けファッション雑誌『InRed』を材料に－	
学会等名	発表年月日	発表場所
第29回社会言語科学会	2012年3月11日	桜美林大学 町田キャンパス（東京都）

発表者名	発表標 題	
細馬宏道	じゃんけんにおける行動の同期と身体相互行為	
学会等名	発表年月日	発表場所
HCSワークショップ・研究会	2012年3月5日	ホテルウェルシーズン浜名湖（静岡県）

発表者名	発表標 題	
Mamiko Sakata	Quantification of Open Communications Structure in Duo-Comic Acts Manzai	
学会等名	発表年月日	発表場所
International Symposium of Human Body Motion Analysis with Motion Capture	2012年1月21日	立命館大学 びわこ・くさつ キャンパス(BKC) エポック 立命21（滋賀県）

発表者名	発表標 題	
岡本雅史	共同行為としての会話における「潜在」と「不在」	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本語用論学会第14回大会	2011年12月4日	京都外国語大学（京都府）

発表者名	発表標 題	
西本光志	三者間の共同創作活動におけるコミュニケーション－作品の創作性への影響－	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本認知科学界第28回大会	2011年9月23日	東京大学 本郷キャンパス（東京都）

発表者名	発表標 題	
石本祐一、榎本美香	話者移行適格場となる発話末要素の到来を告げる韻律変化	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本音響学会秋期研究発表会	2011年9月22日	島根大学（島根県）

発表者名	発表標 題	
Yuichi Ishimoto, Mika Enomoto, Hitoshi Iida	Projectability of Transition-Relevance Places Using Prosodic Features in Japanese Spontaneous Conversation	
学会等名	発表年月日	発表場所
Interspeech2011	2011年8月29日	Florence, Italy

発表者名	発表標題	
石本祐一	発話末要素の有無の韻律的予測	
学会等名	発表年月日	発表場所
言語・音声理解と対話処理研究会	2011年7月22日	九州工業大学 (福岡県)

発表者名	発表標題	
Hiromichi Hosoma	Extended gesture unit and adjacency pair	
学会等名	発表年月日	発表場所
ICCA10	2011年7月7日	Manchester, UK

発表者名	発表標題	
Takeo Tsukamoto	Collection and Analysis of Multimodal Interaction in Direction Giving Dialogues: Towards an Automatic Gesture Selection Mechanism for Metaverse Avatars	
学会等名	発表年月日	発表場所
AAMAS 2011	2011年5月2日	Taipei International Convention Centre (台北市)

〔図書〕 計(1)件

著者名	出版社		
岡本 雅史	医学出版社		
	書名	発行年	総ページ数
看護ポケットマニュアル 精神科		2012	120-121

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

--